

第7次エネルギー基本計画案

— 原発回帰いっそう鮮明に！

国の中長期エネルギー政策の方向性を示す「第7次エネルギー基本計画」の原案が公表され、**原発回帰がいっそう鮮明となりました。**

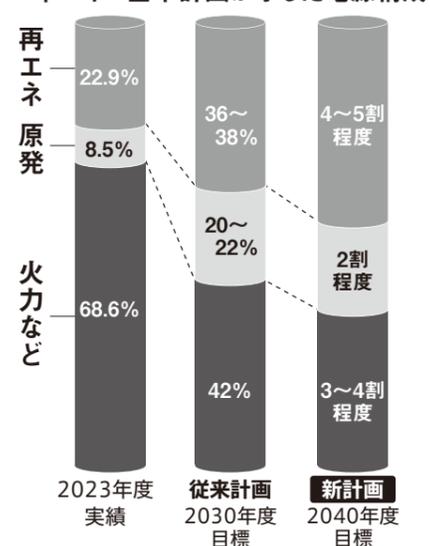
原案で原発については、東京電力福島第1原発事故以降、政府自身が掲げてきた「可能な限り原発依存度を低減する」の文言を削り、再生可能エネルギーと合わせ「最大限活用」を打ち出しました。事故の教訓を投げ捨て、**原発回帰をいっそう鮮明にした形です。**

さらに原発の新規建設について踏み込み、岸田文雄政権が2022年12月に決めた「GX基本方針」で廃炉を決めた敷地内と限定していたのを、電力会社と同じ敷地外でも可能にし、**新規建設をしやすい方針としました。**

2040年にも原発2割温存

原案は2040年度の電源構成に占める原発の割合を「2割程度」、太陽光など再生可能エネルギーの割合を「4〜5割程度」に、LNG（液化天然ガス）や石炭などの火力発電を「3〜4割程度」と温存する方針です。第6次計画の2030年後の10年後の計画であるにも関わらず、**僅かに再エネを10%増やすだけで、原発も火発も同程度延命する計画であり、「何もしない」に等しいものです。**

エネルギー基本計画が示した電源構成



原発コストを過少評価

原子力を「他電力と遜色がないコスト水準」としていますが、発電コスト検証ワーキンググループによる原発のコスト試算は大幅な過小評価がされています。原発新設費用を、7,203億円（建設費5,496億円+追加安全対策費1,707億円）としていますが、近年建設されている原発の実際の費用は、フィンランドのオルキロト原発3号機1.7兆円、米ボーグル原発一基当たり2.2兆円、仏フラマンビル原発2.1兆円、英ヒンクリーポイントC原発一基当たり4兆円以上（見込み）となっており大幅な過小評価である。

福島の実態を無視

事故を起こした原発では溶け落ちた燃料デブリの試験的取り出し作業が始まりましたが、依然として廃炉の見通しは立っていません。事故から14年が経過する今でも、住民が自由に出入りすることができない「帰還困難区域」が7つの市町村に広く残され、避難を続ける福島県民は福島県の発表だけでも約2万5千人にのぼります。原発事故も被害も続いているのに、なぜ、原発を「最大限活用」するなどと言えるのでしょうか。

原発の「最大限活用」は、日本のどこかで、再び原発事故が起きる可能性を大きくします。昨年9月に発生した能登半島地震では、石川県の北陸電力志賀原発、新潟県の東京電力柏崎刈羽原発で、事故につながりかねないトラブルが発生しました。また家屋の倒壊や道路の寸断により、事故が起きた際の屋内避難も屋外避難も困難であることが明らかになりました。地震や津波が多い日本で原発の運転を続けることはたいへん危険です。

火力3〜4割は、1.5℃目標にも整合しない

COP28ですでに、世界は「化石燃料利用からの脱却」に合意しています。またG7では2024年には「2035年までに石炭火力から脱却」する方向性にも合意しています。一方日本では、石炭火力を含む発電部門の化石燃料利用を継続することが強く主張され、今回2040年の電源構成でも火力を3〜4割としており、国際合意に相反しています。1.5℃目標を目指すうえでも、できる限り早期に大幅な削減が必要です。火力発電は可能な限り削減し、省エネ・再エネに移行が必要です。

決定的に重要な10年

気候危機の深刻化に対する認識に欠け、COP28決定が、2030年までが「決定的に重要な10年」であるとしたことに対する認識が欠けています。気候変動問題の進行を止めるには、徹底した省エネと再生可能エネルギー100%を実現するしかないことを明記すべきです。環境省自身

が「日本の再生可能エネルギーのポテンシャルは、年間消費電力量の7倍ある」と報告しています。今の政府に任せては状況は変わりません。例えば電気料の購入を再エネ比率の高い電力会社に切り替える。住宅の窓に内窓を入れて断熱効果を高める。住宅の屋根に太陽光パネルを設置する。その際の補助金をもっと出すよう政府・行政に要請する。脱炭素に取り組む議員に投票する。今すぐ私達ができることはたくさんあります。



2月末完成の新しいソーラーシェアリング発電所

農民連フラッシュ flash

餅つき交流会開催

石倉団地浪江町民と二本松市民との新春餅つき交流会が1月11日、同団地集会所で開かれました。今年で5回目、140人が参加。つきたてのきな粉とあんこ餅、豚汁、甘酒が振舞われ、子どもさんから年配の方まで、アトラクションの歌ごえ、民謡を聞きながら美味しく食べていただきました。午後は馬場靖子さんの写真展と津島被害者原告裁判の現状報告と交流。裁判や復興施設の問題が話され理解を深めました。

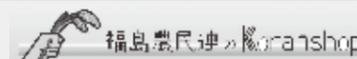


福島県農民連女性部総会で太極拳講座を実施!

1月21日、第31回福島県農民連女性部の総会が郡山温泉にて開催されました。今回は総会だけではなく特別企画として太極拳講座も行われました。まずは初心者もできる動きを講師の先生に教えていただき、その後皆で音楽に合わせてながら7分間の演武に挑戦しました。少し難しい動きもありましたが、講座が終わった後は「楽しかった！またやりたい！」といった声が上がっていて大変盛り上がりしました。



楽天市場出店はじまりました!



お店の名前は **【福島農民連の Koranshop】**
こらんしょっぷ

福島の方言、こらんしょ「いらっしゃい」「来てください」という意味からきています！
楽天市場からのご購入お待ちしております！



こちらから